

平成 28 年 度

第 60 回 簿 記 検 定 試 験

1 級 (原価計算)

問 題 用 紙

(制限時間 1 時間30分)

(平成28年12月11日施行)

受験上の諸注意

- ・答案はすべて答案用紙に記入すること。
- ・すべての答案用紙に受験番号を記入すること。
- ・赤字で記入すべきところは赤インク、赤鉛筆を用いること。
- ・その他答案の作成にあたっては、教科書に基づき日頃学校で指導を受けている記帳の方法によって、正確・迅速・整然と記帳すること。

1 下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次の中からもっとも適当なものを使用すること。

売 掛 金	製 品	/ 級 製 品	2 級 製 品
副 産 物	作 業 く ず	第1工程半製品	材
工場消耗品	売 上	売 上 原 価	減 価 却 費
棚 卸 減 耗 費	製 造	A 組 製 造	B 組 製 造
第1工程製造	第2工程製造	製 造 間 接 費	製 造 間 接 費
材料消費価格差異	製造間接費配賦差異	本 社	工 場

- (1) 単純総合原価計算を採用している唐津工業株式会社は、月末に機械装置の減価償却高を計上した。ただし、
/年分の減価償却費は ¥18,000,000 である。

- (2) 個別原価計算を採用している基山製作所は、月末に素材の实地棚卸を行ったところ275個であった。よつて、次の素材に関する当月の資料にもとづいて、素材勘定の残高を修正した。ただし、消費単価の計算は移動平均法による。

12月 / 日	前月繰越高	1,000個	@¥792	¥792,000
12月 / 3日	当月仕入高	2,800〃	@¥830	¥2,324,000
	当月消費数量	3,500〃		

- (3) 工場会計が独立している嬉野製作所の本社は、かねて、得意先太良商店に製品3,200個を @¥13,000 で掛売りしていたが、本日、そのうち30個が工場に返品されたので、売上高および売上原価を修正した。なお、この製品の製造原価は @¥9,500 である。ただし、本社には製品勘定を設けていない。(本社の仕訳)

- (4) 会計期末にあたり、製造間接費配賦差異勘定の残高を売上原価勘定に振り替えた。なお、製造間接費配賦差異勘定の前月繰越高は ¥13,000 (借方) であり、当月の製造間接費の予定配賦額 ¥6,726,000 と実際発生額 ¥6,753,000 との差額は、製造間接費配賦差異勘定に振り替えられている。

- (5) 工程別総合原価計算を採用している杵島製作所は、月末に工程別総合原価計算表を作成し、各工程の完成品原価を次のとおり計上した。また、各工程の完成品はすべていったん倉庫に保管しており、第1工程完成品2,200個 (原価@¥150) のうち2,000個を第2工程 (最終工程) に投入した。なお、第1工程完成品の月初はない。

第1工程	¥330,000	第2工程	¥517,300
------	----------	------	----------

- (6) 組別総合原価計算を採用している鳥栖製造株式会社は、組間接費 ¥490,000 を機械運転時間を基準にA組とB組に配賦した。なお、当月の機械運転時間はA組800時間、B組600時間であった。

- (7) 等級別総合原価計算を採用している鹿島工業株式会社において、1級製品300個と2級製品200個が完成するとともに副産物が発生した。ただし、完成品の総合原価は ¥1,800,000 であり、そのうち副産物の評価額は ¥40,000 であった。なお、等価係数は次の1個あたりの重量を基準としている。

/級製品	200g	2級製品	100g
------	------	------	------

2

伊万里製作所は、個別原価計算を採用しており、X製品（製造指図書#1）、Y製品（製造指図書#2）を製造している。なお、直接作業時間を基準として、製造間接費を予定配賦している。また、賃金の消費高の計算には、作業時間/時間につき ¥1,300 の予定賃率を用いている。以下の資料によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) 部門費振替表を直接配賦法によって完成しなさい。
- (2) 製造部門費配賦差異勘定を完成しなさい。
- (3) X製品（製造指図書#1）の原価計算表を完成しなさい。

資料

- a. 月初仕掛品 X製品（製造指図書#1） ¥590,000（原価計算表に記入済み）
- b. 当月直接材料費 X製品（製造指図書#1） ¥1,090,000 Y製品（製造指図書#2） ¥450,000
- c. 年間製造間接費予算額・年間予定直接作業時間

	第1製造部門	第2製造部門
年間製造間接費予算額	¥5,250,000	¥3,800,000
年間予定直接作業時間	15,000時間	10,000時間

- d. 当月直接作業時間

	第1製造部門	第2製造部門
直接作業時間	製造指図書#1 800時間	500時間
	製造指図書#2 600時間	450時間

- e. 補助部門費の配賦基準

	配賦基準	第1製造部門	第2製造部門	動力部門	修繕部門
動力部門費	kW数×運転時間数	25kW×240時間	20kW×180時間	—	10kW×40時間
修繕部門費	修繕回数	3回	3回	2回	—

- f. 当月完成品数量 X製品（製造指図書#1） 80個

3

- (1) 次の各文の（ ）の中に、下記の語群のなかから、もっとも適当なものを選び、その番号を記入しなさい。
 - a. 経費は消費高の計算方法により、支払経費・月割経費・（ア）経費に分けられる。経費のうち、特定の製品の製造のためにのみ要する外注加工費や（イ）などは直接経費となる。
 - b. 操業度の変動にかかわらず、一定期間の発生総額が一定している原価要素を（ウ）という。操業度の変動にともなって、その発生総額も比例的に増減する原価要素を（エ）という。

【語群】

- | | | | |
|--------|-----------|--------|----------|
| 1. 厚生費 | 2. 特許権使用料 | 3. 測定 | 4. 間接 |
| 5. 変動費 | 6. 固定費 | 7. 賃借料 | 8. 一般管理費 |

3

(2) 単純総合原価計算を採用している神崎製作所の次の資料にもとづき、月末仕掛品原価と完成品単位原価を求めなさい。なお、素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。また、月末仕掛品原価の評価方法は先入先出法により、正常減損は工程の始点で発生しており、正常減損費は完成品および月末仕掛品に負担させる。

資料

a. 生産データ		b. 原価データ	
月初仕掛品	2,200kg (70%)	月初仕掛品原価	
当月投入	<u>7,050kg</u>	素材費	¥ 192,800
合計	9,250kg	加工費	170,600
月末仕掛品	1,200kg (60%)		
正常減損	<u>50kg</u>	当月製造費用	
完成品	<u>8,000kg</u>	素材費	¥ 588,000
() 内の数値は加工進捗度をあらわす。		加工費	646,200

4

佐賀製造株式会社は、単純総合原価計算を採用し、製品Aを製造している。下記の資料によって、

- (1) / 2月中の取引の仕訳を示しなさい。
- (2) 賃金勘定・製造勘定に記入して、締め切りなさい。
- (3) 単純総合原価計算表を完成させなさい。

ただし、i 前月繰越高は次のとおりである。

素材	1,400kg	@ ¥ 710	¥ 994,000	
工場消耗品	120個	@ ¥ 320	¥ 38,400	
仕掛品	¥ 454,000 (うち、素材	¥ 299,000	加工費	¥ 155,000)
製品	1,500個	@ ¥ 1,100	¥ 1,650,000	
賃金(未払高)	¥ 257,000			

- ii 素材の消費高の計算は先入先出法により、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。
- iii 賃金の消費高の計算には、作業時間1時間につき ¥ 780 の予定賃率を用いている。
- iv 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。
- v 月末仕掛品原価の計算は平均法による。
- vi 勘定記入は、日付・相手科目・金額を示すこと。

取 引

/2月 5日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。

素 材	1,700kg	@¥820	¥1,394,000
工場消耗品	700個	@¥320	¥224,000

/1日 素材1,700kgを消費した。

/9日 次の製造経費を小切手を振り出して支払った。

電 力 料	¥258,000	保 険 料	¥56,000
修 繕 料	¥45,000		

25日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃 金	¥924,000
-----	----------

うち、	控除額	所 得 税	¥101,000	健康保険料	¥32,000
-----	-----	-------	----------	-------	---------

3/日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は340個であった。よって消費高を計上した。

② 当月の作業時間は1,200時間であった。よって、賃金予定消費高を計上した。
(消費賃金勘定を設けている。)

③ 健康保険料の事業主負担分として ¥32,000 を計上した。

④ 当月の製造経費を計上した。

電 力 料	¥264,000	保 険 料	¥48,600
減価償却費	¥120,000	修 繕 料	¥46,400

⑤ 当月の製造数量について、次の資料を得た。

完成品数量	2,500個	月末仕掛品数量	500個 (加工進捗度 60%)
-------	--------	---------	------------------

⑥ 当月の賃金未払高は、¥285,000 であった。よって、賃金の実際消費高を計上する。

⑦ 予定賃率による消費高と実際消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。

⑧ 当月の製品の販売(掛け売り)について、次の資料を得たので売上高および売上原価を計上した。

売上数量	3,000個	販売単価	¥2,100	払出単価	@¥1,125
------	--------	------	--------	------	---------

平成 28 年 度

第 60 回 簿 記 検 定 試 験
1 級 (原価計算)

答 案 用 紙

(制限時間 1 時間30分)

(平成28年12月11日施行)

佐賀県高等学校教育研究会商業部会主催

1

	借 方	貸 方
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		
(5)		
(6)		
(7)		

受験番号	□

2

(1)

部門費振替表

平成〇年/月分

直接配賦法

部門費	配賦基準	金額	製造部門		補助部門	
			第1製造部門	第2製造部門	動力部門	修繕部門
部門費計		844,000	360,000	280,000	144,000	60,000
動力部門費	kw数×運転時間数					
修繕部門費	修繕回数					
配賦額計						
製造部門費合計						

(2)

製造部門費配賦差異

前月繰越	9,000	()	()
()	()	次月繰越	()
()	()		()

(3)

製造指図書# /

原価計算表

直接材料費	直接労務費	製造間接費			集計	
		部門	時間	配賦率	金額	摘要
425,000	130,000	第1	100	350	35,000	直接材料費
						直接労務費
						製造間接費
						製造原価
						完成品数量
						製品単価

3

(1)	7	1	9	工	
				月末仕掛品原価	
(2)				完成品単位原価	
	¥			@¥	

受験番号	2	3

4 (1)

	借方	貸方
/2月5日		
//日		
/9日		
25日		
①		
②		
③		
④		
3/日		
⑤		
⑥		
⑦		
⑧		

受験番号	団(1)

4

(2)

賃 金		製 造	
	12/1 前月繰越 257,000	12/1 前月繰越 454,000	

(3)

単純総合原価計算表
平成〇年/2月分

摘 要	素 材 費	加 工 費	合 計
材 料 費			
労 務 費			
経 費			
計			
月 初 仕 掛 品 原 価	299,000	155,000	
計			
月 末 仕 掛 品 原 価			
完 成 品 原 価			
完 成 品 数	2,500個	2,500個	2,500個
製 品 単 価	¥	¥	¥

受験番号	団(2)(3)	総 得 点

平成 28 年 度

第 60 回 簿 記 検 定 試 験
1 級 (原価計算)

採 点 基 準

(平成28年12月11日施行)

1

	借 方	貸 方
(1)	製 造 1,500,000	減 価 償 却 費 1,500,000
(2)	棚 卸 減 耗 費 20,500	素 材 20,500
(3)	売 上 場 390,000 285,000	売 上 掛 金 390,000 285,000
(4)	売 上 原 価 40,000	製造間接費配賦差異 40,000
(5)	第 1 工 程 半 製 品 330,000 第 2 工 程 製 造 品 300,000 517,300	第 1 工 程 製 造 品 330,000 第 2 工 程 半 製 品 300,000 517,300
(6)	A 組 組 製 製 造 造 280,000 B 組 製 製 造 造 210,000	組 間 接 費 490,000
(7)	/ 級 級 製 製 品 品 1,320,000 2 級 製 製 品 品 440,000 副 産 物 40,000	製 造 1,800,000

受験番号	1
	4 点 × 7 = 28 点

(1)

平成〇年/月分

直接配賦法

部 門 費	配 賦 基 準	金 額	製 造 部 門		補 助 部 門	
			第1製造部門	第2製造部門	動力部門	修繕部門
部 門 費 計		844,000	360,000	280,000	144,000	60,000
動 力 部 門 費	kw数×運転時間数	144,000	※ 90,000	54,000		
修 繕 部 門 費	修 繕 回 数	60,000	30,000	※ 30,000		
配 賦 額 計		204,000	120,000	84,000		
製造部門費合計		844,000	480,000	364,000		

(2) 異差賦配部門製造

前	月	繰	越	9,000	(第 / 製造部 門費)	(	/0,000)				
(第 2 製造部 門費)				(	3,000)	次	月	繰	越	(	2,000)
				(	/2,000)					(	/2,000)

(3) 製造指圖書井 / 原 価 計 算 表

集計					
摘要		金額			
直接材料費		1,515,000			
直接労務費		1,820,000			
製造間接費		505,000			
製造原価		3,840,000			
完成品数量		80個			
製品単価		48,000			

(1)	7	3	4	2	7	6	工	5
	月末仕掛品原価				完成品単位原価			
(2)	¥165,600				¥179			

受験番号	[2]	[3]
※ 3 点 $\times$ 5 = 15 点 (1) 2 点 $\times$ 4 = 8 点 ◎ 2 点 $\times$ 1 = 2 点 (2) 3 点 $\times$ 2 = 6 点		

4

(1)

借 方		貸 方	
/2月5日	素 材 工 場 消 耗 品	買 掛 金	1,618,000
			※
/ / 日	製 造	素 材	1,240,000
/ 9 日	電 力 保 險 繕 料	当 座 預 金	359,000
			※
25日	賃 金	所 得 税 預 り 金 健 康 保 險 料 預 り 金 当 座 預 金	101,000 32,000 791,000
			※
3 / 日	① 製 造	工 場 消 耗 品	153,600
	② 製 造	消 費 賃 金	936,000
	③ 製 造	健 康 保 險 料	32,000
	④ 製 造	電 力 保 險 繕 料 減 価 却 費	264,000 48,600 120,000 46,400
			※
⑤	製 品	製 造	2,850,000
⑥	消 費 賃 金	賃 金	952,000
⑦	賃 率 差 異	消 費 賃 金	16,000
			※
⑧	売 掛 金 上 原 価	売 製 上 品	6,300,000 3,375,000
			※

受験番号	㊦(1)
	※ 4 点 × 6 = 24 点

4

(2) 賃 金

12/25 諸 口	9,24,000	12/1 前月繰越	2,57,000
31 次月繰越	285,000	31 消費賃金	9,52,000
	1,209,000		1,209,000

製 造

12/1 前月繰越	4,54,000	12/31 製 品	2,85,000
※11 素 材	1,24,000	” 次月繰越	444,600
31 工場消耗品	1,53,600		
” 消費賃金	9,36,000		
” 健康保険料	3,20,000		
” 諸 口	4,79,000		
	3,294,600		3,294,600

(3)

単純総合原価計算表
平成〇年/2月分

摘 要	素 材 費	加 工 費	合 計
材 料 費	1,240,000	1,53,600	1,393,600
労 務 費	—	※ 968,000	968,000
経 費	—	479,000	479,000
計	1,240,000	1,600,600	2,840,600
月 初 仕 掛 品 原 価	299,000	1,55,000	454,000
計	1,539,000	1,755,600	3,294,600
月 末 仕 掛 品 原 価	※ 256,500	188,100	444,600
完 成 品 原 価	1,282,500	1,567,500	2,850,000
完 成 品 数	2,500個	2,500個	2,500個
製 品 単 価	¥ 513	¥ 627	¥ ☆ 1,140

受験番号	団(2)(3)	総 得 点
	※4点×4=16点 ☆1点	100点